



# 月刊・伊藤ひろたかの 1分でわかる市政レポート

伊藤ひろたか事務所

〒226-0003 緑区鴨居3-3-2 川端ビル1F

e-mail:voice@hiro-chan.net

TEL&amp;FAX 045-935-7850

URL

http://hiro-chan.net



## 子育てのしやすい街とは？

**前**回4月号レポートでは横浜市議員の数と給料の議論を取り上げました。本号では平成21年度予算のうち、子育てに関する部分にスポットを当てます。私自身がどういう問題意識を持ち、議会でどのように働きかけているのかを明らかにしたいと思います。詳細は裏面に譲りますが、予算編成上、私は納得できないものでしたので、議会で戦いました。

子育てのしやすい街ってどんな街でしょうか？待機児童がゼロの街、小児医療がタダの街、あるいは子育て手当の豊かな街、色々な意見があると思います。その1つひとつは重要ですが、もっと大切なのはセーフティネットが整っていること、だと私は考えます。つまり子育てで悩んだ時に気軽に相談できる場所、愚痴をこぼせる場所、あるいは子育てに関する様々な情報を交換できる場所、そういう場がどれだけ用意されているかが子育てのしやすさに繋がるのではないのでしょうか。

**私**が「場」が必要だと考えるのは、ここ10年で企業による社宅の廃止などと相まって、核家族化がさらに深化したためです。子育て中のお母さんが孤立しているのは、そういった社会的背景と無縁ではありません。

では、横浜市や緑区の現状はどうなっているのでしょうか？緑区には、子育て支援拠点「いっぽ」が十日市場駅に、親子の居場所「はなまる」が中山駅にあります。このほかにも地区センターやコミュニティハウス、ケアプラザ、そしてなんと大型ショッピングセンター「アピタ」でも、週に1回のペースで先輩の子育てママによる子育て相談や情報交換の場が開設されています。事前の予約は要りませんし、出入りも自由ですから、気軽に参加できる点が大変好評を博しています。

## 自らの子育てを通じて

**私**自身も双子の子育て中であり、上記の様々な場所でお世話になっています。同じ子育て中のお父さん・お母さんからも好評の声を聞いています。ただ、1つだけ私が感じる問題点は各種の取り組み



子育て応援ガイドブック

を横串で通す仕組みがないこと。例えば、緑区内は育児サークルが各地域に結構な数存在します。我が家も、あるサークルに参加していますが、サークル同士の交流はありません。学年の違う育児サークルが交流できれば、もっと情報交換の密度が濃くなるでしょうし、地域の結びつきももっと有効なものになるでしょう。そういう意味で今後、子育てのネットワーク作りに議員という立場から汗をかいていきたいと考えています。ぜひ、ご意見などがありましたら教えて下さい（[herol001@ezweb.ne.jp](mailto:herol001@ezweb.ne.jp)まで）。

## ちょっと優しさが足りないのでは？

平成21年度予算のお話をしましょう。今年は約300億円の税収減の前に、様々な事業がカットされました。どこかにしわ寄せがいくのは仕方のないことですが、しわの寄せ方に横浜市の優しさが表れると私は思います。その観点から見ると、子育てに対する優しさが足りないと感じたので、議会でもその点を徹底的に主張しました。

具体的にお話しましょう。例えば、産後支援ヘルパー派遣事業というのがあります。出産後6か月以内の子供を持つお母さんのうち、体調不良等が原因で家事や育児が困難な場合、ヘルパーを派遣し家事等を補助する事業です。従来は約2600万円の予算がついていましたが、平成21年度は90%の大幅カット。カットの理由が「青葉区や港北区、都筑区などお金に余裕のある世帯ばかりが利用しているから」というもの。「同様のサービスは民間にもあるから、そちらを利用してもらう」（横浜市）という見解でした。

この回答、納得できますか？まったく優しさを感じないと思いませんか？実はこの事業は始めて4年が経過し、年々利用者が増えている事業だったのです。2年前までほとんど行政が事業のPRを行っ

## ハマハグ、ご存じですか？

「子どもを連れて行って食事ができるかな？」  
「泣き出すと周りから白い目で見られないだろうか？」

子育て中、色々なことが気になるものです。

横浜市では子育て世代を応援する「ハマハグ」という事業を展開しています。具体的には、ハマハグ協賛店で登録証を提示すると、お得な割引・優待サービス、便利な備品の提供を受けられます！

<http://www.hamahug.jp>

ていなかったため利用率が低かったのですが、議会の指摘によって積極的な告知と利用形態に若干の修正を加えたところ、利用者が劇的に増えた事業だったのです。頼りたくとも頼れる身内が近くにいないという家庭が増えている中で、子育て中のお母さんにとっては大変助かる事業にも関わらず、いとも簡単に予算カット……。

青葉区や港北区などの平均所得は確かに高いかもしれませんが、それは40代、50代の所得が高いから。子育て中の20代、30代の所得はそれほど大きく変わるものではありません。ですから、区によって利用状況に差がある原因は所得にあるのではなく、別の要因があると考えべきです。しかし、そういった検討がされた形跡も全くありません。来年度以降、この事業に少なくとも従前と同程度の予算が付くように、議会で働き掛けていきたいと思っています。

子育てで一番大変なのは乳児期です。お母さん達が子育てのネットワークに入る前の段階、この乳児期のケアこそが住みやすい街を作っていくはずですが、いくら財政難といっても予算をカットする場所が違う、私はそう思い、議会でも再三再四要求しました。繰り返しますが、子育て世代の声を代弁し、同事業を復活できるよう頑張っていきます。